

## 日本大学大学院商学研究科アドミッション・ポリシー（商学専攻）

### I 博士前期課程

博士前期課程 商学専攻では、マーケティング、流通、金融など幅広い専門分野の中から、自ら課題を発見し、それを解き明かしていくことを目指す人材を広く求めている。そのため、現代社会が直面する諸問題の中から、本質的な課題を洞察し解き明かす能力や、物事を論理的・批判的に思考できる能力を持った方を積極的に受け入れる。

- AP① 最新の学術的な商学の知識を習得し、その知識を実践的な場に応用することを目指そうとする人材。
- AP② 複雑なビジネス現象を、専門的および学際的視点から論理的に分析し、説得力ある解決策を導きだし、その解決策を広く社会に発信することを目指そうとする人材。
- AP③ 実務的経験をベースに、さらに高度な知識や理論を習得することで多様な専門分野の方ともコミュニケーション能力を高めることを目指そうとする人材。

### II 博士後期課程

博士後期課程 商学専攻では、前期課程で修得した知識や研究能力をさらに発展させ、マーケティング、流通、金融において先進的な研究を担うことができる研究者を志向する者、あるいはこれら分野における高度の専門的知識を身につけた専門職業人を目指す者を求める。

- AP① 博士前期課程を通じて学んだ理論や方法論をさらに深耕、発展させ、より独自性の高い研究を目指そうとする人材。
- AP② 目指すべき専門分野において明確な問題意識や研究対象を持ち、高い倫理観を持って自立して研究活動を行い得る人材。
- AP③ 複雑なビジネス現象の因果関係を、論理的、実証的に解明し、さらにその成果を社会に発信・還元することを目指そうとしている人材。

## 日本大学大学院商学研究科アドミッション・ポリシー（経営学専攻）

### I 博士前期課程

博士前期課程経営学専攻では、学士課程で修得した専門的知識と幅広い教養をベースに、専門分野で自らの課題を見つけ出して、解決したいという研究意欲のある学生、または、専門分野の知識をより深めることで、その知識を実際のビジネスに活用、応用したいという社会人を受け入れる。

- AP① 最新の学術的な経営学の知識を習得し、その習得した知識を実践的な場に応用することができる人材。
- AP② 複雑なビジネス現象を、多角的視点から論理的に分析し、説得力ある解決策を導きだし、その解決策を広く社会に発信することができる人材。
- AP③ 実務的経験をベースに、高度な知識や理論を習得することで多様な専門分野の方ともコミュニケーションができ、かつ強いリーダーシップを発揮できる人材。

### II 博士後期課程

博士後期課程においては、博士前期課程において修得した専門知識と研究能力をベースに、独自性の高い研究を自らデザインし実行できる方、あるいは、高度な専門知識を身につけ、その知識を専門研究機関などで活用したい方などを受け入れる。

- AP① 博士前期課程を通じて学んだ理論や方法論をさらに深めることで、蓄積してきた研究成果をさらに発展させ、より独自性の高い研究を目指そうとする人材。
- AP② 目指すべき専門分野において明確な問題意識や研究対象を持ち、高い倫理観を持って自立して研究活動を行い得る人材。
- AP③ 複雑なビジネス現象の因果関係を、論理的、実証的に解明しようとし、またその成果を的確に社会に発信できる人材。

## 日本大学大学院商学研究科アドミッション・ポリシー（会計学専攻）

### I 博士前期課程

博士前期課程会計学専攻では、学士課程で修得した専門的知識と幅広い教養をベースに、財務会計、管理会計、監査などの会計学分野で自らの課題を見つけ出して、解決したいという研究意欲のある学生、または、会計学分野の知識をより深めることで、その知識を実際の会計専門職に活用、応用したいという社会人を受け入れる。

- AP① 最新の学術的な会計学の知識を習得し、その習得した知識を実践的な場に応用することができる人材。
- AP② 会計行為や会計事象を、多角的視点から論理的に分析し、説得力ある解決策を導きだし、その解決策を広く社会に発信することができる人材。
- AP③ 実務的経験をベースに、高度な知識や理論を習得することで多様な専門分野の方ともコミュニケーションができ、かつ強いリーダーシップを発揮できる人材。

### II 博士後期課程

博士後期課程会計学専攻においては、博士前期課程において修得した会計学領域の高度な専門知識と研究能力をベースに、独自性の高い研究を自らデザインし実行できる方、あるいは、会計学領域の高度な専門知識を身につけ、その知識を専門研究機関などで活用したい方などを受け入れる。

- AP① 博士前期課程を通じて学んだ理論や方法論をさらに深めることで、蓄積してきた研究成果をさらに発展させ、より独自性の高い研究を目指そうとする人材。
- AP② 会計学分野において明確な問題意識や研究対象を持ち、高い倫理観を持って自立して研究活動を行い得る人材。
- AP③ 会計行為や会計事象の背後にある複雑な因果関係を、論理的、実証的に解明しようと志し、またその成果を的確に社会に発信できる人材。